

家族がつくった「認知症」早期発見のめやす

これは、認知症の人と家族の会の介護者が作成したチェックリストです。暮らしの中で、認知症ではないかと思われる言動をまとめました。医学的な診断基準ではありませんが、目安として参考にしてください。いくつか思い当たることがあれば、下記相談機関へ相談することをおすすめします。



物忘れがひどい

- 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 同じことを何度も言う・問う・する
- しまい忘れ・置き忘れが増えいつも探し物をしている
- 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

判断・理解力が衰える

- 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 新しいことが覚えられない
- 話のつじつまが合わない
- テレビ番組の内容が理解できなくなった

時間・場所が分からない

- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある

人柄が変わる

- ささいなことで怒りっぽくなった
- 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 自分の失敗を人のせいにする
- 「このごろ様子がおかしい」と周囲に言われた

不安感が強い

- ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴える

意欲がなくなる

- 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ふさぎ込んで何をすることも面倒がり、いやがる

出典：公益社団法人「認知症の人と家族の会」

アルツハイマー月間
アルツハイマー月間にちなみ、市内の公共施設で認知症に関する資料の配布や展示を実施します。

●会場 ▽市役所柳川庁舎▽市立図書館▽西鉄柳川駅構内▽水の郷▽まほろばやまと▽市民文化会館▽サンブリッジ

□認知症サポーター養成講座
認知症の人やその家族の身近な理解者となる「認知症サポーター」を養成する講座。認知症の基本的な知識を講師が向いて伝えます。10人以上のグループで開催可能。開催日程と会場を決めて、開催日の40日前までに市福祉課高齢者福祉係（☎77・8516）へ申し込んでください。

□認知症に寄り添うために
誰もがなる可能性がある認知症。症状が出て地域でいきいきと生活できる住みやすいまちをつくるには、一人一人が認知症を理解し、寄り添うことが大切です。この機会に、認知症を理解するための一歩を踏み出しましょう。

●県認知症医療センター大牟田病院（☎58・7295）
県の指定医療機関。認知症の初診前の相談を受け付けたり、医療機関を紹介したりしています。



出典：公益社団法人「認知症の人と家族の会」

社会的な課題となっている認知症。市は、9月の世界アルツハイマー月間にちなみ、アルツハイマーなどの認知症への理解を深める取り組みを実施します。他人事ではなく、自分ごととして、認知症を考えてみませんか。

【問】市福祉課高齢者福祉係（☎77・8516）

認知症は病名ではなく症状

認知症とは、脳の病気や脳に影響する体の病気が原因で、これまで培ってきた知識や技術が失われ、社会生活に支障が出るようになった症状です。厚生労働省の研究によると、2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると予測されます。市の65歳以上の人口は約2万1000人で、全体の約34%。高齢化が進むにつれて、認知症に関する相談も増えてきています。

大切なのは早期発見・早期対応

認知症の症状が表れても、本人や家族が受け入れられず、放置した結果、重症化するケースが後を絶ちません。認知症は、初期段階で対応すれば進行を遅らせることができます。進行が遅れると、時間に余裕がなくなるため、適切なサービスを利用できません。左上の認知症早期発見のめやすを参考に、早めに相談してください。

相談機関

- 市福祉課高齢者福祉係（☎77・8516）
認知症地域支援推進員が、相談を受け付け、必要に応じて関係機関と連携を取りながら支援をします。
- 地域包括支援センター（☎75・6321）
保健師や社会福祉士、ケアマネジャーなどを中心に、高齢者を支援

認知症を学び、交流できる「認知症カフェ」

認知症の人やその家族、地域住民、介護福祉の専門家など、誰でも気軽に参加できる認知症カフェ。現在、市内に6カ所開設されています。さらに秋には、新しく水の郷と市民文化会館に開設予定。ただし、新型コロナウイルスの影響で、開設時期が延期になる場合があります。カフェの場所や開催日時など、詳しくは、市公式サイトで確認してください。
※参加費は100円から200円程度です。



杉森高校看護専攻科の学生が運営する杉森カフェ

会話を大切に、利用者が笑顔になれるように

令和元年に、地域の人たちと交流の場ができたという思いから、認知症カフェ「杉森カフェ」の運営を始めました。今は、新型コロナウイルスの影響で、杉森カフェが開催できていません。しかし、毎回来ていただいている利用者さんと少しでも交流できるように、季節ごとにメッセージカードを送っています。利用者に関わる中で一番大切にしていることは会話。利用者のこれまでの経験や好きなことなどたくさん話を聞くようにしています。杉森カフェが開催できるようになったら、地域の人の楽しみになるように、そして笑顔が増える場になるように運営していきたいです。



杉森高校看護専攻科 室園弥佑さん（左）と渡邊晴さん